THE GLOBE PROGRAM FOR SDGs

SDGsのための GLOBEプログラム

応用編

A07

都市農業の特徴と役割を考えよう

中学　地理的分野「日本の諸地域」
高校　地理総合「持続可能な地域づくりと私たち」

都市農業とその現代的意義

都市農業とは、「市街地及びその周辺の地域において行われる農業」（都市農業振興基本法第2条）であり、都市およびその近郊で、消費地に近い利点をいかして新鮮さや付加価値を有する農産物及び農産加工品を供給する地産地消型農業です。2015年には、都市農業の安定的継続を図るとともに、多様な機能の適切かつ十分な発揮を通じて良好な都市環境の形成に資することを目的とした「都市農業振興基本法」が制定されました。

近年は、農業体験の場を都市住民や子どもたちに提供し、災害時の避難場所や防災空間の確保、日常生活のアメニティを高める緑地空間の提供など、その多様な機能が重視されています。下図は農林水産省が都市農業の多面的な6つの機能・役割を示したもので、いまや大地や風土に根差した都市農業は環境保全や都市計画・まちづくりに欠かすことのできない地域資源といえます。

都市農業の多面的な機能と役割
出典：農林水産省(2022)「都市農業をめぐる情勢について」

都市農業の変遷と課題

(1)都市化と都市農業の政策的位置づけ

●高度経済成長期に都市への人口集中が加速するなか、無秩序な市街地拡大を防止しつつ宅地需要に対応するため、1968年「新都市計画法」が制定され、おおむね十年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき「市街化区域」内の農地は、事前に届出を行えば転用可能となりました。1980年代には地価高騰が顕著となり、市街化区域内の農地の宅地化が進行します。

●しかし1991年以降、三大都市圏特定市においては、農家の意向をふまえ、農地が「宅地化する農地」と「保全する農地」とに区分されました。「宅地化する農地」は、固定資産税の宅地並み課税が適用され、相続税の納税猶予制度が不適用となった一方で、「保全する農地」は「生産緑地法」に基づく「生産緑地」の指定を受けると、農地並み課税となるなど優遇措置が適用され、農業施策の対象となって長期営農が可能となりました。

●2018年に「特定生産緑地制度」が施行され、生産緑地の指定から30年経過後は、所有者の同意を得て買取り申出時期を10年ごとに延長できることとなり、現在も多くの生産緑地の営農が継続されています。

(2) 都市農業の特徴

●通年で多種類・多品種の作物を栽培（30〜40種類の野菜を栽培する農家も多い)。野菜や果物、植木・花等の生産が中心。

●農家1戸あたりの生産規模は小規模ですが、単位面積あたりの生産性が高い集約的農業。無人スタンドや庭先販売、オーガニックなど付加価値型農業、直売所や農家レストラン・観光農園などの多角経営もみられます。

●住宅地の中に農地が分布し、年間を通して身近に農業・農地を観察でき、地域内における生産から消費までの過程を学ぶことができます。

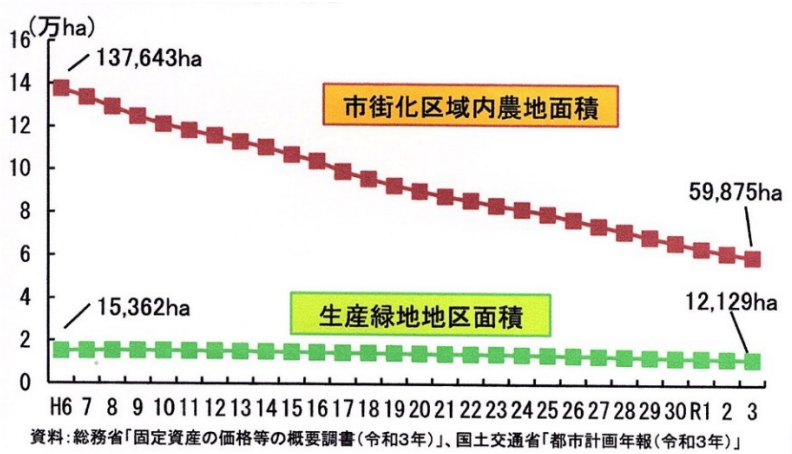
●伝統野菜の継承・再生や活用などに寄与する事例もみられます。

(3)都市農業の主な課題

●農家の減少・高齢化が進行するなか、農地ならびに後継者・担い手の確保・維持を促進するための施策や取り組み。

●小規模生産が多く、大量・安定供給が難しい。

●農地周辺環境の整備や、都市住民の農業への理解をいかにはかるか。



日本における市街化区域内農地と生産緑地地区面積の推移
出典：農林水産省(2022)「都市農業をめぐる情勢について」

内容：観測・観察方法や学習方法

(1)学校や自宅周辺の農地を観察してみよう。

●農地の分布・立地の特徴や周辺の土地利用を観察するとともに、地形や水利などの自然環境にも目を向けてみよう。

●自治体が毎年発表する農業統計等で、農家数や農地面積及び生産品目等の推移や特徴を調べてみよう。

●栽培作物とその種類、季節・時期による違いをまとめてみよう。

●農事暦（一年をとおした主な農作業）と畑の様子を観察してみよう。見た目だけでわからない作物については、本・資料やインターネットで調べてみよう。

●「生産緑地」の看板を探してみよう。

●農家の経営上の工夫や苦労、よろこびなどについて話を聞いてみよう（事前にご協力いただけるかお願いしてからがよい）。

●市民農園がある場合は運営・利用形態を確認してみよう。

●観光農園がある場合は、その立地や経営形態等を調べてみよう。

(2)農作物がどのように販売され流通・消費されているか調べてみよう

●農協直売所や地元スーパの野菜売り場に地場産野菜のコーナーが設置されていることも多い。農作物の種類や収穫された地域名・生産農家の名前・写真のポップおよび説明書きなどにも注目してみよう。

●農家の庭先や畑の一角に無人販売スタンドが設置されていることがある。そうした販売方法をとる理由や、生産農家あるいは消費者にとってのメリットを考えよう。

●役所やJAに地元農業に関するパンフレットや野菜販売所の地図などがある。

●自分の家で購入した野菜・果物の産地を調べ、地元産のものがあるか、他地域・国が産地のものはどこからきたか確認しよう。

●学校給食等で地元の野菜がどの程度使われているか調べてみよう。

●農家や農地に設置された「のぼり」や市・農協の広報誌・ポスター、webサイトなどをもとに、近年の農業に関する農家や地域の取り組み・活動とそのねらいを調べてみよう。

(3)生活圏の特徴や課題を探求しよう

●都市農業の地域資源としての位置づけや活用のされ方を調べ、その多面的・多角的な機能や地域的課題との関わりを考えてみよう。

●京野菜・加賀野菜・江戸東京野菜など、地域の歴史や伝統文化と関わる都市農業の取り組みや活動について調べ、そのねらいや地域的特徴ならびに課題を探求しよう。

【グローブとの関連】

①気候条件の変化と農業生産との関係

●気温（最高気温・最低気温、降水量など）の観測結果と、地域内の作物の生育状況・収穫量・品質・価格などについて、市や農協、農家の人に話を聞いて、どのような関係があるか考察してみよう。

●温暖化や冷夏・暖冬、集中豪雨・長雨などによる農業への影響や被害・対策などについて、農協や農家の方に話を聞いてみよう。

②土壌条件と農作物の種類や品質、収穫量との関係

●畑地の場所や土壌特性（温度・水分など）と農家が栽培する作物との関係や、作物の生育状況との関係について、JAや農家の人に話をきいてみよう。

関連資料

■都市農業について、農林水産省webサイト、農村振興局農村政策部農村計画課都市農業室、
https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi_nougyo/t_kuwashiku.html

■農林水産省(2023)「都市農業をめぐる情勢について」
https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi_nougyo/attach/pdf/t_kuwashiku-31.pdf